

道北地域の景気の基調判断を引下げました（2012年1月）

皆さん、明けましておめでとうございます。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、1月12日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を引下げ、「持ち直しの動きが鈍化し、横這い圏内で推移している」としました。下方修正は、2011年4月以来9か月振りです。

下方修正した理由は、個人消費です。「一部で持ち直しの動きがみられる」を、「一部で持ち直しの動きが続いているが、そのペースは鈍化している」に変更しました。大型店の売上高（薄型TV等家電製品の減少が続く中、弱目の動き）、自動車（供給制約の解消や前年<エコカー補助終了に伴う駆け込み需要の反動>の裏要因から前年比で大幅に増加）は前月までと変わりません。一方、観光については、持ち直しの動きが続いているが、そのペースは足もと鈍化している、と判断しました。利用可能な11月の統計をみると、空港利用客数（旭川、稚内、女満別、紋別）はほぼ前年並み（1.4%）にまで回復してきましたが、ホテル・旅館の宿泊客数（ウトロ温泉地区、網走・温根湯地区、層雲峡・白金地区、利尻島地区）は8.9%（10月1.2%、7~9月8.3%）と、減少幅が拡大しました。また、冬期開園準備期間の関係から11月の旭山動物園の開園日が少なく、入園者数が大幅減となった影響もありますが、11月の層雲峡温泉の宿泊者数は大幅に減少（26.5%）しました。旭川地区や富良野・美瑛地区の宿泊者数（上川総合振興局調べ）も、11月は10月に比較し、減少幅が拡大しています（旭川地区：11月5.7%、10月2.6%、富良野・美瑛地区11月21.5%、10月5.9%）。もっとも、やや長い期間でみて観光が持ち直しの方向にあることには変わりなく、ヒアリング情報によれば、1月、2月の旭川市内や層雲峡のホテルの予約状況は、直前になって決まる外国人観光客の帰趨がまだはっきりしない部分はあるものの、国内観光客はますますということです。それでも、「震災後大きく落ち込んだ後の急速な持ち直し局面に比較すれば、改善テンポはやや鈍化」（旭川市内のホテル）している、ということです。

その他（公共投資は横ばい圏内で推移、設備投資は低水準で推移、住宅は緩やかに持ち直し。この間、オホーツク漁業の漁獲金額は増加、生産は強弱まちまち<震災特需の剥落等から減産の動きがみられる一方、電子部品関連は、新製品の作り込みから増産の動き>、雇用環境は改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいる）については、大きな変化点はありません。個別の動きについては、金融経済概況をご参照ください。

今後については、引続き観光動向、とりわけ外国人観光客の動向に注目しています。12月にコメントした通り、旭川空港の国際チャーター便が相次いで運行再開・新規就航しました。円高の影響は懸念されますが、震災の影響は徐々に薄れつつあります。戻りが遅か

った中国人観光客も、1月下旬の旧正月（1/22～28日）に向けた予約が徐々に入りつつあるところ。予断は許しませんが、冬場の閑散期に大きな存在感を示すインバウンド観光客の回復に期待したいと思います。この間、年々減少を続けてきた公共投資については、2012年度の北海道開発事業費が、「東日本大震災の復旧・復興対策費」を含めると、2011年度当初予算比で久方ぶりに増加に転じることとなります。公共投資を取り巻く環境は引続き厳しいものとなっていますが、久方ぶりの朗報と言えます。

一方で、円高や海外景気の減速等外部環境の悪化に伴う消費マインドの冷え込みが消費に悪影響を及ぼす可能性については、引続き警戒が必要です。

個別の動きについては、金融経済概況をご参照ください。

なお、貨物輸送量（金融経済概況の付表に掲載）は、月による振れはあるものの、このところ堅調な動きが続いており、11月は+8.5%の増加となりました。農作物（米、玉葱等）が増加に寄与しています。玉葱等は一昨年が猛暑により不作であったことの裏が出たものですが、米は昨年の作況が良好であったことを反映したものとみられます。このほか、11月の漁獲高は、数量・金額ともに増加するなど、道北地域における一次産業は比較的堅調です。当地でウエイトが大きいといっても、一次産業に景気全体の基調を左右する程のインパクトはないとみられますが、景気を下支える効果については大いに期待しているところです。

2012年1月12日
荒木 光二郎